

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年2月1日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200291
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター国分 グループホームニチイのほほえみ
所在地	鹿児島県霧島市剣之宇都町9-6 (電話) 0995-48-6623
自己評価作成日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年1月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、利用者様とスタッフが家族のような雰囲気です。
2、家族が気兼ねなく、いつでも訪問出来る雰囲気作り。
3、常に笑いがあふれる施設づくり。
4、地域の方々との交流づくり。
5、利用者様の好む食事の提供。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、市役所から少し離れた幹線道路沿いに、平成22年12月に同法人のデイサービス事業所に隣接して設置されており、周辺にはスーパーマーケットや大型商業施設、個人商店、個人住宅等が立ち並んでいて利便性も良い。平屋構造のホームは、日当たりが良くテラスや菜園等が整備されて家庭的な環境となっている。デイサービス事業所とは日頃から情報を共有し、防災訓練等を合同で実施するなど協力関係を築いており、利用者も散歩時には会話を楽しんでいる。</p> <p>管理者及び職員は理念に沿って、利用者がその人らしく生きがいのある平穏な暮らしとなるように、一人一人の心に寄り添い、利用者主体の支援に日々努めている。日頃から利用者及び家族の思いや要望を把握し、サービスの改善に取り組んでおり、信頼関係が築かれている。</p> <p>地域との交流については、通常は利用者の意向や体調に配慮しながら散歩時の会話やボランティアの受け入れなどに積極的に取り組んでいるが、現在は新型コロナウイルス感染の予防に配慮して、イベントの多くが中止になり、また、外出等も自粛している。このような状況の中でも、家族との交流を継続するためにガラス越し又はオンラインによる面会の実施や電話、手紙等の取り次ぎに努め、感染症の予防に配慮しながら園庭での散歩や訪問美容、訪問マッサージ等を実施して利用者のリフレッシュを図っている。</p> <p>管理者は、職員と気軽に意見を言い合える信頼関係と協体制度を構築しており、日頃の業務の中や業務ミーティング時に積極的に意見や要望を聞き取り、また、個人的事情にも配慮しながらサービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。有給休暇取得の促進や業務に関する助言指導、計画的な研修の実施等に日頃から努めており、外部研修時の受講料等には法人の助成制度もあり職員の就労意欲向上に繋がっている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎月の業務ミーティング内での唱和、理念の掲示を行っている。唱和・掲示を行うことで共有し実践している。	ホームの理念に「利用者がその人らしく安心して生活出来るように心に寄り添う支援」を掲げ、確認しやすいように事務室やリビングに法人の社是と共に掲示しており、毎月の業務ミーティング時には唱和も行って共有している。日頃の業務の中や業務ミーティング等で、ケアの振り返りや意見交換を行って理念に添った支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住人に運営推進会議に参加して頂き、地域の行事の情報を頂き、交流を図っていく。回覧板を活用し、地域の情報を得る。	自治会に加入しており、通常は自治会長の来訪や回覧板等で地域の情報を把握してイベント等に参加したり、日頃の散歩や買い物時には地域の人と会話を楽しみ、野菜の差し入れ、家族・友人の面会、施設見学、ボランティアを積極的に受け入れるなど地域とは良好な関係が構築されているが、現在は、新型コロナウイルスの感染予防のため買い物やボランティアの受け入れ、イベントへの参加等は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議や避難訓練に参加して頂き、お互いのリスクの軽減に努めている。緊急時に協力を得られるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段であれば、二カ月に一回、運営推進会議を開催している。その中で、利用者様の状態や、事故や行事の報告を行っている。新型コロナの影響で、開催できず、資料配布にとどまっている状態。	会議は定期的（年6回）に開催し、家族や民生委員、自治会長、行政職員等が出席して、ホームや利用者の現況、ヒヤリハット事例等の報告を行い、委員からは地域の情報等が出されているが、本年度は新型コロナウイルス感染予防に配慮して一堂に会するのは控えて、資料の配布で現状を理解してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見を頂き、本庁においても、施設のパンフレットを置かせて頂いている。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、ホームの運営や感染症予防に係る相談等を電話やインターネット、窓口に出向いて行い、指導や助言をもらうなど、日頃から協力関係を築いている。市主催の新型コロナウイルス感染症に関する研修会等にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の業務ミーティング内で身体拘束委員会を開催し、話し合いを行っている。身体拘束に関する研修を行っている。	身体拘束や高齢者虐待、権利の擁護については、施設内研修を計画的に実施し、毎月委員会も開催してケアの方法等の意見交換を行って認識を共有している。また、指針も整備して自由な暮らしの支援に努めており、不適切な言葉遣いにはお互いに注意し合って改善を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務ミーティング内で、身体拘束、虐待防止に関する研修を行っている。虐待防止のスローガンを施設内の見える場所に掲示している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	業務ミーティング内で、研修を行い、権利擁護に関する制度の知識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、改訂時には説明を行い、同意を頂く様にしている。面会に来られた際や、契約時、不安等が無い聞き取りを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。運営推進会議や面会時に聞き取りを行っている。その中で出た意見は、全スタッフに共有し、反映できるようにしている。	利用者の思いを日頃の会話や仕草、独自のサイン等で理解に努め、家族からの意見、要望は面会や電話、手紙等で利用者の状況を伝えながら把握し、顧客満足度調査（法人本部が年一回実施）の意見も活用している。現在は新型コロナウイルスの感染予防に配慮して家族を交えてのイベントの開催は自粛し、ガラス窓越しやオンラインでの面会や電話、手紙で現状を伝えながら要望等を出してもらい、改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティング内で、カンファレンスや業務改善に向けての話し合いを行い、支援方法等について話し合っている。意見があるときにはその都度話し合いを行っている。	日頃の業務の中や朝夕の申し送り、業務ミーティング等で意見、要望等を聞き取り、必要に応じて個人面談も実施して改善を図っている。計画的な研修の実施や資格取得へのバックアップ、有給休暇取得の促進にも積極的で、勤務シフトには個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割分担を行い、全スタッフが責任を持って仕事ができる様にしている。研修を通し、ケアの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、内部研修を行っている。様々な研修を行い、スキルアップに繋げている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の連合会や協議会に参加し、会合や勉強会に参加している。近隣の施設と連携をとり、運営推進会議や避難訓練に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様のもとを訪問し、状態の確認を行っている。これまでの生活情報を御家族から聞き取りを行い日々のケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の説明を行う際には、不安に思っている事が無いか聞き取りを行い、スタッフと家族が、本人に関して共通認識を持てるようにしている。入居後、面会以外でも連絡を密に行い、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、見学や訪問時に、現在の身体状況の聞き取りを行い、それを基にケアプランを立てている。医療機関との連携や無償貸与といったサービスが活用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体状況や体調、意思を尊重し、無理の無い範囲で、食器拭きや洗濯物置みといった事に協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態悪化時や緊急時どのような対応を取っていくかを入居前に聞き取りを行っている。必要時には連携を取り、意見や協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会時には、なるべく居室で過ごして頂ける様になっている。面会はいつでも来て頂ける事を伝えている。新型コロナの影響もあるので、オンライン面会も導入している。	利用者毎の馴染みの情報を共有し、体調や天候に配慮しながら日常的に園庭を散歩し、通常は家族との買い物、通院、外食、一時帰宅等を促進している。現在は新型コロナウイルス感染予防のため外出は自粛し、ガラス窓越しやオンラインでの面会や、お便り、電話、訪問美容、訪問マッサージ等を実施して馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や身体状況に応じ、席の変更を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、問い合わせや相談があれば、対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の聞き取りを随時行い、意向や希望の確認を行っている。	日頃の会話や仕草、独自のサイン等で利用者の思いを把握し、生きがいのある利用者主体の暮らしとなるよう家族の意向も伺いながら取り組んでいる。余暇時間も利用者の意向を尊重しながら、趣味（新聞読み、日記帳、読書、テレビ視聴、ぬり絵他）や清掃、茶碗拭き、洗濯物たたみ、庭の草取り等の取り組みを個別に支援し、それらの成果には言葉で伝えて達成感を得てもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族から、生活歴の聞き取りを行っている。入居前のケアマネジャーや施設からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや声掛けを行う中で、身体状況の把握に努めている。変化があった際には、業務ミーティングや連絡帳を活用し共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時に担当者会議を開催している。身体状況が変化した際には御家族と連携、情報共有を行い、支援方法について話し合いを行っている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示やモニタリング時の職員の意見を基に、残存機能や習慣、趣味等にも配慮した介護計画を作成している。ケアの実施状況は、申し送りや業務管理日誌、ケアチェック表、連絡帳等で共有し、利用者の状態が変化した際は、実態に沿った介護計画に変更して改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を利用者毎にしている。それらを確認することで情報共有を行っている。業務ミーティング内ではカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望を聞き、様々なサービスが活用できるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での聞き取り、回覧板を活用した情報収集を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の定期訪問、主治医への病院受診支援を行っている。入居時にご家族の意向や希望の確認を行っている。	利用者毎の入所前の病歴や受診状況は把握しており、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。主治医の定期的な訪問診療や訪問看護が実施され、歯科についても訪問診療で治療している。通院時の同行は家族にお願いしているが、家族が不都合な時は職員が同行している。協力医療機関との医療連携を構築し迅速な受診が実施されており、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は常駐していないが、訪問看護師との連携を行っている。緊急時は、主治医、訪問看護師と連携を取り、ケアを行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時はスタッフが随時面会に行き、その際、主治医・担当看護師に状況確認を行っている。状況を把握した上で、主治医・ご家族への報告・連絡・相談を密に行い連携を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、ご家族の希望や意思の確認を行っている。終末期を迎えた場合は、再度話し合いを行い、意向の確認を行い、計画書にサインを頂いている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については指針を整備しており、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ている。入居後は状態変化に応じて家族に説明し、また、介護計画の更新時には必ず意向を確認している。重度化した時点で、主治医や職員、家族は十分な話し合いを行って、可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、これまでも多くの看取り（本年度3件）を実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応について研修を行っている。緊急時の連絡網を作成している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>日中・夜間を想定した訓練を行っている。地域の方にも参加して頂ける様にしている。</p>	<p>年3回（うち夜間想定1回、ディサービス事業所との合同訓練1回）、火災及び風水害時の防災訓練を実施し、消火器等の取扱いも研修している。また、地震災害の勉強会も開催するなど災害への認識を強化している。職員及び地域の連絡網の作成や自動通報装置やスプリンクラーが整備され、災害時の食糧や飲料水、介護用品等も在庫チェックしながら備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際には利用者様の尊厳に配慮を行っている。スタッフ間で言葉使いについて注意しあうようにし、接遇に関する研修を行っている。	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いように計画的な研修の実施やケアの振り返り等で認識を共有し、利用者の思いを尊重した支援に努めている。また、法人本部による研修では理解を確実にするための試験も実施している。印刷物への氏名、写真の登載については入所時に意思確認しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不穏な行動がみられた時には入居者様の話を聞き、個々に合った説明を行い納得して頂いている。また事務所や居室で不満や不安を聞き出せる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の行きたい場所（例えば外）、食べたいもの等、入居者様の生活のリズムや思いを考慮し希望に添えるような支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	普段着と寝間着の区別をしている。衣類の選択が出来る入居者様は、選んで頂くようにしている。髭剃り、散髪を定期的実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやおぼん拭きを出来る範囲で手伝いを頂いている。食事は、配食を活用し、季節感のある物を食べて頂いている。	主食（米飯）のみをホームで調理し、副菜は民間業者の配食を利用している。お節や恵方巻、年越しそばなど季節感にも配慮した食事が届けられており、職員が利用者の状態に合わせた形態にしている。食器洗い等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。誕生日のケーキやプリン、テラスでのお茶等、食事が楽しみなものになるよう努めているが、新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は外食や家族との会食等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・体重の確認、記録を行っている。利用者様の状態にあった食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。利用者様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の確認を行い、介助や誘導が必要な方に対しては、定期的に声掛けを行っている。利用者様の状態に合わせ、リハビリパンツ、オムツを活用している。	各利用者の排泄パターンを把握し、習慣にも配慮しながら昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。昼夜ポータブルを使用していた利用者が昼間はトイレでの排泄が可能になるなどの改善が見られている。利用者に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させ、便秘の予防には乳製品、オリーブオイル、水分等の摂取や運動量に配慮し、主治医にも相談して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排泄の状態を記録に残し、状態把握に努めている。乳製品やオリーブオイルを活用し、便秘にならないようにしている。それでも出ない場合には医療機関と連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	週二回を基本にしている。利用者様の状態や気分に合わせて、入浴していただいている。	週2回の入浴を清拭や足浴等も取り入れながら支援しているが、排泄時の汚染等には、その都度、清拭やシャワー浴で清潔を維持している。予定外の入浴希望や好みのシャンプー、温度、時間、習慣、同性介助等にも柔軟に対応し個浴で楽しんでもらい、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、無理強いないで時間や声かけ等を工夫して、利用者自身の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に声かけを行い居室で休んで頂いている。また横になるのを嫌う方には無理のない姿勢で休息を取って頂く。夜間不眠がある方に関しては、医療機関と連携をとっている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように一包化をお願いしている。誤薬防止としてダブルチェックを準備の段階、服薬介助の段階で行っている。内服の変更時には共有出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやおぼん拭き、洗濯物たたみといったことへの協力をいただいている。それ以外にも床を掃いてくださる方には準備を行って声掛けを行っている。季節行事を計画し気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候にあわせ、庭で日光浴や、畑での園芸をしていただいている。外出は、ご家族対応をお願いしているが困難な方は、別なサービスを活用していただいている。	心身の状態や天候等に配慮しながら日常的に園庭の散歩やディサービスの利用者と交流している。法人の方針で、ホーム全体での外出は実施されていないが、通院、墓参、一時帰宅、買い物、外食等の外出を家族の対応で個別に取り組んでいる。現在は新型コロナウイルス感染予防に配慮して、園庭の散歩及び通院以外の外出は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は基本金銭を所持していない。必要なものはご家族に購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や親族にはいつでも電話の取り次ぎは可能である事は説明している。オンライン面会を導入している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は随時確認を行っている。季節感のある物や草木を飾ったりしている。。	廊下や玄関、リビング等の共有スペースは、明るく開放感に満ちている。季節の活花や利用者の作品（書道やぬり絵等）、観葉植物の鉢が随所に置かれ、また、菜園には季節の野菜や草花が植えられ、園庭やテラスではお茶や日光浴が楽しめるなど、家庭的で和やかな雰囲気である。清掃や空調、衛生管理等が徹底され、不快に感じる音や臭いもなく、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでは利用者様の身体状況、希望にあわせ席を決めている。随時変更を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものを持ってきていただいている。御家族の協力を得て、写真等を準備していただいている。</p>	<p>居室は腰高窓もしくは掃き出し窓の構造で明るく、エアコン、カーテン、クローゼットが備えられている。ベッドは自宅からの搬入やレンタル等を活用しており、利用者の状態を考慮して高さや設置場所を調整している。利用者の意向を確認しながら整頓等を支援し、家庭同様に快適な生活となるように、利用者は使い慣れた寝具やテレビ、愛着のある家族写真や遺影、小物等を持ち込み、また、自分の作品等も飾って居心地の良い居室が整えられている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所や居室が分かるように表示してある。安全面ではバリアフリーになっており、手すりを配置してあるので動きやすい環境になっている。転倒リスクの高い方の居室にはマットを敷いて対応している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない